



M.ZUIKO DIGITAL ED25mm F1.2 PRO
オープン価格
 (実勢13万5000円前後)
 こういふ写真が手持ちスナップ感覚で手軽に撮影できることに驚いた2017年の夏。このED25mm F1.2 PROの持つ可能性についてレンズを手に取りまじまじと考えてしまっ高性能高描写でありました。本体も質感高く、PROレンズらしくフォーカスリングの滑りでMFとAFフォーカスの切り替えが素早くできます。が、カメラ任せで充分早いフォーカス合わせが可能です。大きなボケとシャープなピントをもたらす立体的な描写を楽しんでください。



シャッター速度 1/20秒
 絞り f 1.8
 撮影感度 ISO3200
 撮影モード i-Finish



M.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6EZ
オープン価格
 (実勢3万1000円前後)
 木立の中で繰り広げられた夏の終わりの生き物模様。ISO感度を上げてまも撮れますが、こういう木陰のシーンでは接写でもストロボを使用した方がクッキリハッキリ描写できます。慌ててストロボつけようとしてもたぶんとすぐには見つかりませんし手元にも無し。見つけるにはカメラリしか残ってないでしょう。OM-Dシリーズの中で唯一ストロボ内蔵のOM-D E-M10 Mark IIIにはバッチコイのモチーフでした。合掌。



シャッター速度 1/60秒
 絞り f 5
 撮影感度 ISO100
 内蔵ストロボ使用

こ
ん

電子写真機戀愛

第二夜

これから写真を始める善男善女のやや

女子よりにオススメ! オリンパス OM-D E-M10 Mark III

な
寫

真

に

戀

を

す

る

は前回の電子写真機戀愛にてシグマ sd Quattro Hを取り上げ、皆さまにご紹介したことをやや反省しております。正直、あのカメラは通あるいは玄人、もしくは粹人に愛されるカメラであり、例えば「掬波ルシェ」のファンで「怒髪天」のライブを聞き、古いスズキジムニーを愛し、回る寿司屋に行けば頑なにカニサラダを注文し続けるようなちょっと変わった趣味の人(全部俺)に向けての発信であるべきだったと、ちょっとマニアックであったかなと……。

そこで今回はもっと一般向けに、たとえば小物インテリアは無印良品で選び、カフェに通ってタコライスとガパオライスをヘビロテランチし、タンスの中はナチュラルコットンの服ばかり、いつかはやましたひでこの提唱する断捨離つつのをやってみたいのだけど実はまだとっちらかったままなの、うふふ。というチャームイングガール&ベテラン女子にぴったりなクラシカルデザインの最新ミラーレスをご紹介! 人気のオリンパスOM-Dシリーズ最新作 からこの秋OM-D E-M10 Mark IIIが新登場いたしました! 軽量でコンパクトながら本格一眼カメラのシルエットと軽快さでファンのココロをワシ掴んだE-M10シリーズの三作目ですが、このたびは強力なボディ内5軸手ぶれ補正、カメラにお任せフルオートから創作意欲に火をつけるクリエイティブ撮影まで4つのアシスト撮影モード、簡単タッチ操作に待ってましたのWi-Fi搭載、これにて速やかにスマホへと連携せしめ、写真をSNSへとキラキラ具合を前面に押し出し迅速にアップが可能になりました。リア充おませ。

そして機能的進化はシャッター速度で約4段分の5軸手ぶれ補正。これは上位機種であるOM-D E-M1 Mark IIゆずりの強力なサポートであり、暗がりや夜景、そして高精細でブレが目立つ4Kムービー撮影時にもシャープな映像を撮影することが出来るようになったのです。このように先進機能を備えつつ、端正なクラシックデザインを踏襲した結果、別売りの本革ボディジャケットCS-51Bをはじめとし本革ストラップ、本革レンズジャケットとアクセサリとも素晴らしい完成度。カメラ女子とこのレザーアクセサリは反則のカワユス(感じ方に個人差があります)さだと思えます。



これさえあれば
 なべて世は
 こともなし

M.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F4.0-5.6Rがあれば35ミリ換算で28ミリワイドから望遠300ミリまでカバー。これだいたい撮れるハズ。

また撮影インターフェースとしてAUTO(オート)やSCN(シーン)のほか、新たにAP(アドバンスフォト)などを搭載。これはライブコンボジット、多重露出といったやってみたいけど撮り方がさっぱりわからんという一眼レフカメラ特有の面倒で高度なテクニックを簡単な操作で可能にしました。そしてART(アート)モードにはこれまでのアートフィルターに加え、古い現像方法で「銀残し」と言われていたブリーチバイパスと呼ばれる渋いフィルターも加わり、より多彩な表現力を手に入れました。さらにモニターにタッチしてピント合わせとシャッター操作を同時に行うタッチAFシャッターを使えば動き回るキッズの最高一枚を切り撮ることができるであります。このように機能盛りだくさん感のあるOM-D E-M10 Mark IIIですが、盛ったばかりでなく先代機種にはあったストロボのリモートコントロールなど「カメラ始めたばかりのヒトはあまり使わない」機能などをそぎ落とし断捨離。よりカメラ操作しやすいようにメニューの見直しを実行しました。これらの努力により最高撮影感度ISO25600の有効画素数約1605万画素のLive MOSセンサー、約8.6コマ/秒の高速連写機能とボディ内5軸手ぶれ補正搭載、4Kムービー撮影や120fpsのハイスピード撮影、15種のアートフィルターにカラークリエイター、有機ELビューファインダーは約236万ドット、内蔵ストロボ付きで本体のみ約362gと超軽量超コンパクトボディを実現しました。これに組み合わせるレンズはM.ZUIKO DIGITAL ED 14-42mm F3.5-5.6EZがまず最適。ダブルズームキットであれば標準ズームレンズの14-42mm F3.5-5.6EZとM.ZUIKO DIGITAL ED 40-150mm F4.0-5.6Rがセットになっております。これに加えて、M.ZUIKO PROレンズシリーズよりM.ZUIKO ED 25mm F1.2 PROなんぞをチョイスしてはいかがでしょう。OM-D E-M10 Mark IIIに装着すると標準レンズの焦点距離である50mmの画角、そして開放値F1.2という別次元の美しいボケ味とクリアなピントがモチーフを際立たせる立体的な描写力。このレンズの素晴らしいのはレンズ先端から19.5センチまで寄ることが出来る近接撮影能力。そしてレンズ本体は防塵防滴性能を備えた強靱な構造ながら410gの比較的コンパクトなサイズと質量はマイクロフォーサーズ規格の恩恵なのであります。気軽なボディと充実のレンズラインナップが楽しいオリンパスの最新機種OM-D E-M10 Mark IIIいかがでしょう?



ホンキで撮る
 ご用意はいかが?

ボディはエントリークラス、しかしレンズは超プロ級という組み合わせながら、なかなかどうしてバランス良くまとまって見えるではありませんか。エントリー機といえども実用的で機能性をもったデザインがレンズのボリュームに負けてませんね。ED25mm F1.2 PROはその切れ味とボケ味の素晴らしさから一度使うと手放せなくなりそうな逸品レンズ。



写真と文 織本知之
 とある夏祭りイベントの撮影オーダーが、灼熱取材の大敵は「重い機材」なので今回お借りしたOM-D E-M10 Mark IIIをサブカメラに。終日首から提げても疲れ知らずのこの軽さ、三脚固定の業務用カメラでは撮れない今回の母子と花火が締めくくられる夏の終わりのこのカット。善き也。

オリンパス OM-D E-M10 Mark III



マイクロフォーサーズ規格標準交換式カメラ
 4/3型Live MOSセンサー
 撮像センサーシフト式5軸手ぶれ補正
 ISO LOW(約100相当)、200~25600
 ボディ幅約121.5×高さ83.6×厚み49.5mm
 本体質量約410グラム
 ボディ価格オープン(実勢9万円前後)
 ©オリンパスカスタマーサポートセンター
 ☎0570-073-000



ここがステキさ
 OM-D E-M10 Mark III

この超小型のボディにスタイルを崩すことなく、内蔵ストロボを組み込んでるのは正直スコイと思います。これより上位機種には小型の外付けストロボが同梱されていますが、実際使いたいときにストロボ無しとはよく言ったモノで、内蔵されているにこしたことはありません。